

説明会では こんな意見・質問をいただきました

Q 広島市が考える基町地区のまちづくりの方向性を教えてほしい。

- A
- 基町地区のまちづくりについては、地区の将来を見据え、地区の方々と広島市とが共に目指す将来像を、「多様な世代が共存する、住みやすく、にぎわいのあるまち」としたまちづくりビジョンの素案を提示しています。
 - まちづくりビジョンの素案では、旧太田川に面する県営基町住宅跡地と中央公園とが一体的につながる広大な水と緑の空間を確保し、基町アパートの中層棟（第1～17アパート）の建て替えについては、高層棟の活用や県営基町住宅跡地の一部活用を視野に入れた検討をすることなどをお示ししています。
 - 今後、この素案を基に、地区の方々に参画をいただき検討会議を設け、皆様の意見をお聞きしながらビジョンを構築し、平成31年度に改定を予定している基町住宅地区活性化計画に、ビジョンの実現に向けた必要な取組をしっかりと位置付けていきたいと考えています。
 - また、基町地区のまちづくりは、サッカースタジアムの建設という課題以前のより根源的な課題であると考えています。

Q 宿泊型の福祉・介護施設の整備を早急に進めてほしい。

- A
- 身近な場所でショートステイなど宿泊機能を持つ介護事業所が整備されることは、地区の高齢者の方々が地域で安心して暮らせることにつながると考えていますので、活性化計画の改定等の際に、住民の皆様と御意見を交わし、できるだけ早く具体化につなげていきたいと考えています。

Q 若年世帯の入居はどのように増やしていくのか？

- A
- 若年世帯の入居促進については、特例的な入居を平成27年2月から実施しています。
 - この特例的な入居については、55戸の入居を平成34年度を目途に進めています。今後、地域活動の担い手確保という目的を基本的に維持しながらも、入居を促進できるよう入居条件の緩和を国と協議する等、可能な限り入居を加速させていきたいと考えています。
 - その上で、将来的には、多様な世代の共存に向け、市営住宅の管理運営について、これまでの枠組みに捉われない入居条件の弾力化を国と協議し、若年世帯・子育て世帯の世帯数の割合を現状の11.3%から25%（広島市域における割合）まで増やしていきたいと考えています。

Q 基町ショッピングセンターをどのように活性化するか？

- A
- 建築後40年以上が経過し、空き店舗が多くにぎわいが低下している基町ショッピングセンターについては、入店者の方々の意向や住民の皆様の意見を伺いながら、活性化につながる施設改修や入店者募集を進め、住民の皆様にとって利用しやすい店舗が揃い、景観面でも魅力的で、にぎわいのある施設にしたいと考えています。
 - 特に、ショッピングセンターの中央の広場付近にある店舗については、地域包括支援センターやほのぼの基町のような、地区住民が気軽に相談し、集まることができる公益的施設など、出合いや交流の場として活用したいと考えています。